

## 阿南市行財政改革プロジェクトチーム会議(第1回～第3回) 議事要旨

阿南市行財政改革プロジェクトチームは、人口減少と財政危機に直面する阿南市において、若手職員の視点とアイデアを結集し、持続可能な行政運営を実現することを使命としている。

令和7年度は、公共施設の見直しをメインテーマに据えて議論を行うとともに、メンバー各自が行財政改革に資する提案を会議の場で発表し、チーム内での議論を通して、提案のブラッシュアップを図っている。

これまでに3回の会議を開催し、現時点では以下3つの議題を中心に議論が進められている。

### 1. 公共施設の再編・最適化(メインテーマ)

**現状:**阿南市は多数の老朽化した公共施設を抱え、その維持管理に多大なコストがかかっている。単なる施設面積の削減ではなく、ライフサイクルコスト全体を意識した「スマートな削減」が求められている。

**課題:**過去の机上での削減計画は、市民や現場の反発を招き頓挫した。市民ニーズを無視した一律の削減では、行政サービスが低下し、地域の魅力も失われる可能性がある。

**議論の概要:**既存施設の運用停止・変更、指定管理者制度の導入による民間活用の推進など、ランニングコスト削減策が議論されている。廃止される施設は、単に壊すだけでなく、新たな用途への「転用」を視野に入れ、市民が納得するポジティブな改革を目指し議論を進めている。具体的には、那賀川町複合施設整備基本構想を参考に他地区へ展開するといった意見が出ている。

### 2. AI活用による業務効率化

**現状:**AI技術は飛躍的に進化しており、行政業務の効率化に大きな可能性を秘めている。しかし、先進的なAIと比較して、現状の市役所内AIツールには機能的制約がある。

**提案:**PT内で先進的なAIツールを試験的に導入し、その効果を実証することで、AI活用に対する意識を高め、全庁的な導入を推進していくことが提案されている。これにより、日常業務の時間を削減し、職員がより本質的な業務や市民との対話に時間を割けるようにすることを目指す。一方、セキュリティ等のリスクも存在することから、ルールづくりについても検討を進めている。

### 3. 投票所再編・投票事務の見直し

**現状:**職員数の減少により、選挙事務従事者の確保が厳しく、また人口減少に伴う投票所の見直しは行われていない。投票所ごとの運用や環境にばらつきがあり、効率化が図られていない業務が一定数あることから、職員にとって負担となっている。

**提案:**短期的な改善案として、職員配置のシステム化、庶務担当の業務改善(平準化・業務マニュアル化)、バーコード読み取り導入が提案されている。長期的には、投票所の統廃合や移動式期日前投票所の導入、期日前投票所の増設、電子投票の導入や名簿対照のオンライン化など、市民の利便性向上と職員負担軽減を両立させる改革案が提示、議論されている。

# 第1回会議の概要及び意見

## 1. 会議の日時・議題

日時： 令和7年4月 25 日(金) 15:00～17:00

- 議題： 1 今後の行財政改革について  
2 メンバー自己紹介・リーダー選出について  
3 今年度スケジュールについて  
4 その他

## 2. 内容

### ○ 会議概要

平井副市長からは若手職員の自由な発想と実践的な取組を通じた改革推進を期待している旨の挨拶があり、その後、阿南市財政の現状及び阿南市「新行財政改革」推進プランに関して事務局から説明を行い、歳入と歳出の不均衡が生じており、逼迫した財政状況であることや、公共施設の見直しが主要課題として共有された。その他、メンバーからの自己紹介と併せ、行財政改革に関する意見があった。

### ○ 会議において、メンバーから出た意見は以下のとおり(一部抜粋)。

- 2030年までに日本人のほぼ全ての人々がスマホを持つようになることから、できれば手続の80%をスマホ上で完結できるようにしたい。
- 持続可能な行財政運営ということで歳出だけでなく、歳入にも着目してほしい。
- 生成AIを誰もが使えるようなツールにしていきたい。
- 窓口対応時間の短縮化である。出先機関を含め、持続可能なサービス提供ができるように取り組みたい。
- 地域住民の意思を汲むという仕事も重要であり、行革の議論の中では削減してはいけない部分もあると思う。
- 行革については来年度に反映できるようぐらいのスピード感をもってやりたい。機構改革、職員のあり方、選挙制度・事務の改革に興味があり、課題があると感じている。
- プロジェクトの概要、進捗状況や結果を定期的に職員向けに発信していくべき。
- PTのメンバー以外の若手の意見を吸い上げ、巻き込んで進めていくことも大事ではないかと思う。
- 予算に占める人件費の割合は高いと感じている。
- こどもの規模に応じた保育施設は重要。将来的には正規だけでも回せるよう施設が減ってくることで、会計年度任用職員を減らすことができるのではないかと。
- これから施設を統合した際、避難所になっている施設が管理されていない施設が増えることが懸念。
- 公共施設について、統廃合の議論とセットで利活用の方法も検討する必要がある。
- 民営化や施設の利用料の見直し、民間提案制度による利活用、規制緩和といった方法が必要になってくるのではないかと。
- 徳島市では費用を軸に考えている。これまで支出していた費用がかからないような形になるのであれば、除却に至らずとも本来の目的である歳出の削減につながる。

## 第2回会議の概要及び意見

### 1. 会議の日時・議題

日時： 令和7年5月20日(火) 13:00~15:00

- 議題： 1 公共施設マネジメント室からの説明(勉強会)  
2 公共施設の再編・最適化に関する意見や提案  
3 残り時間にて、その他行革に関する自由意見交換

### 2. 内容

#### ○ 会議概要

市長も同席して開催され、公共施設マネジメント室から公共施設マネジメントに関する詳しい説明があり、公共施設の老朽化と施設過多による財政圧迫が主要課題と認識されました。特に那賀川地区における公共施設の再編統合計画が事例として示され、年間約 2000 万円の経費削減と、保有面積を 6 千㎡から 2 千㎡へ削減する見込みが報告されました。公共施設の見直しについては、効率のみを追求せず、市民ニーズを的確に捉えた施設の有効活用や民間との連携の重要性が強調された。

#### ○ 会議において、メンバーから出た意見は以下のとおり(一部抜粋)。

- 公共施設の最大の課題は、保有するだけで巨額の費用(維持管理費、人件費、光熱水費、修繕費、建て替え費用)がかかり、建設費が 2 割であるのに対し、運用費が 7~8 割を占める。
- 机上の計画によるトップダウンの削減案は、市民の反発を招き、実現が困難であった過去の経験が共有されました。現場での実践と市民のニーズに基づいた計画が重要である。
- 地方都市において、公共施設は民間サービスでは補えない「日常のワクワク感」を提供する役割も持つため、単なる削減ではなく、価値を生み出す「スマートな削減」が必要。
- 那賀川地区の公共施設再編計画が紹介され、老朽化した複数の施設を 1 つに集約するもので、具体的な利用状況調査に基づき、面積削減が利便性を損なわず、かつ年間数百万のコスト削減を見込み、新しく使いやすい施設になっている。
- 市民ニーズを的確に捉え、一つでも多くの実践的な取り組みを積み重ねることが重要。これにより、住民説明会などでの対話も円滑になる効果も期待できる。
- 「公民連携」は、施設の有効活用や新たな価値創造につながるが、共に計画段階から関わるのが理想である。ただし、そのためには日頃からの関係構築が不可欠であり、これを怠ると施設を整備しても活用されないリスクがある。
- 効率のみを追求した机上の計画で、利用者のニーズを十分に考慮できていなかった。このやり方では、同じ失敗を繰り返すことになる。
- 那賀川の事例を参考に、新野地区など他の地区にも目を向けて議論する形で良いかと思う。
- 市役所内にコンビニを誘致し、売り上げの一部を市に納めてもらうのはどうか。

# 第3回会議の概要及び意見

## 1. 会議の日時・場所

日時: 令和7年6月24日(火) 15:00~17:30

議題: 1 公共施設の検討事項

- (1) 検討シートのとりまとめ結果について
- (2) 公共施設マネジメント室からの提議①

### 2 自由提案

- (1) 「生成 AI の安全な活用促進に向けた取組み」について
- (2) 「投票所再編・投票事務の見直し」について

## 2. 内容

### ○ 会議概要

公共施設のライフサイクルコストについて説明があり、イニシャルコストとランニングコストの削減、そして施設の再編や活用方法について議論されている。また、AI 技術の導入による業務効率化の可能性と、投票所の見直しや選挙事務の見直し等による負担軽減についても意見が交わされた。

### ○ 会議において、メンバーから出た意見は以下のとおり(一部抜粋)。

#### 〈公共施設の再編・最適化について〉

- 公共施設の統廃合は、イニシャルコストの削減やニーズへの対応を目指し、「複合施設化」が有効である。
- 新しい図書館の構想では、本を借りるだけでなく、自習スペースやカフェ、子どもが遊べる場所など、多様なニーズに対応した機能の重要性が示された。
- 既存の施設の「運用中止」「運用変更」「指定管理者制度の導入」を通じて、ランニングコストを削減する提案に焦点を当てるのはどうか。特に指定管理者制度は導入することで、民間事業者に運営を委ねることができ、市の財政負担を軽減しつつ、自主事業収入など新たな収益源を生み出す可能性がある。
- 新図書館建設の動きに対し、市民からは那賀川、羽ノ浦図書館の閉鎖を懸念する声が多く寄せられている。那賀川図書館の利用状況は増加傾向にあり、自習スペースの利用者は貸出冊数にカウントされないため、実際の利用者数はさらに多いと推測される。

#### 〈「生成 AI の安全な活用促進に向けた取組み」について〉

- AI 技術の急速な進展に加え、国においても AI 新法が成立するなど、その活用を促進する制度的枠組みの構築が進んでいる。
- AI は業務時間の短縮(30~97%)に大きく貢献し、挨拶文、企画書、議事録作成、情報収集などに活用が可能。
- 職員がより高度な AI ツールを活用できるよう、PT が中心となり、現行ガイドラインの見直しやツールの試行的導入を段階的に進めることが提案された。

#### 〈「投票所再編・投票事務の見直し」について〉

- 職員負担の公平化、業務効率化の観点から、職員配置システムの構築と庶務担当の業務改善、名簿対照の電子化の3点が短期目標として提案された。

- 長期目標として、投票所の配置を最適化する一方で、移動式期日前投票所の導入や期日前投票所の増設といった利便性向上策を一体的に進めることが提案された。
- 担当課へのヒアリングを通じて現況の課題把握と解決に取り組む一方で、やり直しの効かない選挙業務の特性を踏まえ、リスク管理を最優先に進める必要があるとの認識を共有した。